

# 8月の生活表

2021年 8月

聖マリア幼稚園

年主題：共に喜んで～すべての歩みの中で～

月主題：祈り合う

・保育日数 (18/20日)

月目標：

**(3歳)** ・普段とは違う経験もある中、いつでもどこでも神様のお守りがあることを感じる。

・木陰の心地良さや水遊びの後に汗がひいて涼しくなる感触を味わう。

**(保)** ゆったりとした関わりの中で、子どもと一緒に夏の空、虫、野菜、果物など季節を感じる機会をもつ。

**(4・5歳)**

・神さま・イエスさまが平和をくださり、私たちに平和をつくり出すことを望まれていることを知り、祈り合う。

・暑さの中、夏ならではの遊びを喜び、ゆったりと遊ぶ。また心身の休息の時をもつ。

・穏やかに、落ちついた丁寧な生活をする。

1学期の終了日を迎えました。保護者の皆さまにはコロナ禍での様々な対応にご理解ご協力を頂きましてありがとうございました。さあ、夏休みの計画は万全ですか。ご家族で楽しく、お互いの思いを聞き合って、思い出に残るような素敵な日々が過ごせそうでしょうか。小さい時の思い出は、ご両親も各々に育たれた環境を思い出し、「おじいちゃんおばあちゃんにこんなことをしてもらった」「お友だちとこんなことをしたな」「こんな嬉しいこと(悲しいこと)があったな」「夏にはこんな美味しいものを食べさせてもらった」等々。きっと素敵な思い出をお持ちなのではないでしょうか。そこには、主に人との関わり、そして物との関わりが欠かせませんね。人の記憶に残る事柄は、温かい環境で過ごされていれば、いつでもそこに戻りたくなるのでしょうか。そして、今、お子さんに対してどのような思い出を残してあげようと思って下さっていますか。当園は、認定こども園に移行した為ではありますが、他園においても、ここ近年の夏季休暇のお預かりは、コロナ禍で自由に遊びが保証されないこともあり、殆どの方が登園されます。暑い夏に虫取り網を持って、汗をかきかき自然の中で「夏」を満喫する子どもの姿に出会うことが少なくなってきました。改めて「夏休み」という感覚も無くなってきたのかもしれません。社会の変化とともに、子どもと親の関係をどのように結べば良いのかも考えさせられます。7月にも書きましたが、ゆったりとした中で、親子が向き合って遊ぶ・語り合うなどの時間を心してお作りください。子どもたちの一番身近なお手本は、親であり、先生です。朝からの一日を考えると大切な生活(保育)と教育との時間割があるように、夏休みには保護者のもとで、生活と少しの教育が続けられていきます。その生活こそが子どもの成長の基本となり、自立に向かって大ければならない時間となります。そして、お子さんの成長を見つめながら、新しい経験を通してちょっぴり刺激が与えられれば新たな目覚めへと繋がるかもしれませんね。祈りの中、病気をせず、怪我をせず、事故に遭わず、十二分にお気をつけくださり、良き夏休みをお過ごし下さい。

## 《チャプレンコーナー》 8月 月間主題：祈り合う

月聖句：憐み深い人々は、幸いである。

その人たちは憐れみを受ける。（マタイによる福音書 5：7）

随分と古いドラマですが、「同情するなら金をくれ」と、主人公の少女が叫んで、話題になった作品がありました。このセリフに現れているように、うわべだけの

「同情」は、私達を傷つけることがあります。ある人は、同情を次のような言葉で表現されました。「人に寄り添う深い憐れみの心」。その人の置かれている状況とその人の思いを慮り、その人にとって少しでも役に立つ方法を考え、共に歩もうとする、それが本当の意味の「同情」だと、この言葉は教えてくれています。

これは、「上から目線」のものとは、正反対の姿勢です。聖書の中で「憐れみ」は、ギリシア語で「はらわたがよじれる」という単語が用いられています。その人の苦しみを前にして、自分の内臓が痛むほどに、自分の苦しみとして捉える、というのがその意味です。イエス様の教えは、そのような「憐れみ」を人々に勧めるものなのです。

このような憐れみが社会の中に広がれば、世界はもっと優しくなるでしょう。

さて、聖書をお持ちの方は開いていただきたいのですが、マタイによる福音書5章1節からは、「山上の説教」と呼ばれる、長い教えの箇所です。その教えの最初に、「心の貧しい人々は、幸いである」という言葉で始まる、「8つの幸い」の教えがあります。この教えの特徴は、「私たちにとって辛いものが、神様の愛の救いに用いられる」というものです。辛い貧しさも、信仰によって私たちを救うものになる、というものです。今月の主題聖句もこの教えの中にあります。つまり、「憐れみ」とは、私達にとって辛いものなのです。自分にとって辛いもの、痛みを伴うもの、損をするものなのです。誰かを愛するとは、楽しいだけではなく、辛いものをも引き受けることなのかもしれません。

おたんじょうび おめでとうございます

## <生活指導>

☆ 夏休み中の事故に気をつけましょう。

- ・ 歩行中・自転車乗車中・横断歩道を渡っている時・一人でお買い物に行く時・乗り物の乗降時・信号の確認・前後左右の確認などを子ども自身にも気付かせましょう。
- ・ どんな時にも、いつでも周りの危険を感じ、俊敏な動きができるように、常日頃から心と身を鍛えましょう。（外での体を動かす遊び＝縄跳び・ボール遊び・鬼ごっこ等）

☆ 心身共に健康で楽しい夏休みを過ごしましょう。

- ・ 1学期に身につけた生活習慣を崩さない様に気をつけてあげましょう。
- ・ 酷暑の中、不要不急の外出は控えましょう。特に小さいお子さんのバギー、歩行等反射熱の被害予防、またプールは熱中症の落とし穴、特に気を付けましょう。
- ・ 汗をかけた後、自分でも気付くように、着替えもこまめに、暴飲暴食を避け、自分自身で身を守る術を親子でお考えましょう。
- ・ 幼稚園でのお祈りの習慣を保てるようにしてみましょう。  
（ありがとう・ごめんなさい・お守りください・お願いしますetc.）の言葉を通して、家族はもとより、お友達やご親戚、また新聞やニュースで報道される内容などにも触れて、お祈りの時を持ってみましょう。

☆ 今年の夏！ 親子で何に取り組もうと計画されていますか？

- ・ 幼稚園時代だからこそ、たっぷり有る時間を有効に使ってみましょう。
- ・ その一つに毎日一回は親子で向き合い、絵本・粘土・お絵描き・工作・近くの公園での鉄棒・滑り台（遊具も熱に犯されています！！ 気をつけて）などを通して、子供の成長を見つめてみましょう。
- ・ 子どもが自信の持てる何かに取り組めるように、また最後まで根気よく取り組めるような十分な時間を共有し、計画を立てて過ごしてみましょう。
- ・ 特に緑組は、宿題という課せられた課題なく過ごせるのも、今年限り？ ですね。  
大いにお楽しみ下さい。思い出作り(この遊びを通して何を経験させたいのか?)に、子どもさんの意見も取り入れて考えましょう。

## <クラス便り：各担任より>

### <花組>

雨上がりの空に優しいお日様の光が射している様子を二階の保育室の窓からみんなで眺める...。「先生～晴れてきたよ～!」「雨やんだね～!」「そうだね、～良かったね!」そんな会話を交わしながらのほっこりランチタイムは、楽しい笑いの絶えない幸せタイムです。

4月に5名でスタートし、7月より小花ちゃんを迎えて6名になった花組。「夏のお楽しみ会」でご覧いただきました通り、本当に『可愛い!』です。ご家庭で『可愛い・可愛い』と大切に育まれ、マリアでも担任だけでなく全ての先生からことあるごとに『可愛いな～』『かいらしいなあ～=可愛いなあ』と笑顔向けられ・緑組さんは大切に大切に手を取り手伝ってくれて『花組さんて可愛いなあ～』・赤組さんも自分たちの事でまだまだ精一杯なのに、いつも『花組さんからどうぞ～』と譲ってくれるんです。沢山の人々から大切にされ『可愛い』と言って微笑んでもらい愛される。この経験は子どもたちにとってとても大切な、自己肯定感を育む大きな糧です。そして、もっと大切なことは『可愛い・可愛い』とただただ甘やかすのではなく、きちんとその時その場所での必要なけじめを身につけることです。これは、花組さんだから仕方がないね。ということはなく。それはしっかりと伝え、示してあげなければいけないと常々心に留めています。自分で出来ること、先生にここまで手伝ってもらったら後は自分で出来ること、最初から最後まで先生にお手伝してもらって一緒に頑張ってもらったら出来そうなこと。子どもたちはそれぞれに自分が出来ることをしっかりと理解してきました。先生に手伝って欲しいとき、そのことを自分で先生に伝えなければいけませんので「先生、来て～」「先生、お手伝いしてください!」「先生、見といて欲しい(トイレのとき)」とそれぞれ自分なりに伝えるように言葉にして、言葉に出来ない時は先生の手を取り、先生気づいて!とサインを送ってくれます。みんな本当に何事も一生懸命に取り組んでいます。

「夏のお楽しみ会」でのお歌では、大きな声で最後まで真剣に真面目に頑張る姿も、時々歌って時々沢山のお客様にボ～～っとする姿も、歌より身振り手振りの踊り優先になっている姿も、前に出てきただけでも花マル!!と言いたくなる程に不安そうなお顔で立っていた姿も、どれもこれも子どもたちの精一杯でありました。その日のランチタイムの時に小花ちゃんが「〇〇ちゃん、きょうお歌ががんばって歌ってた～」とニッコリ。「ん?物凄く緊張して不安そうに立ってたよね」と思いながら、「そうやんな～がんばってたな～!〇〇ちゃん!すごい!」と、すると、みんなそれぞれに...「がんばった～!」「ドキドキした～」「上手やったで～」などドツと心の声が飛び出しました。リズムバンドも初めてながら赤組・緑組さんに交じり取り組みました。小さな胸は初めての行事にドキドキしていたのだと思います。『可愛い』その姿が本当に『可愛い』のはそんな子どもたちの一所懸命さが伝わってくるからなのだと改めて実感しました。

早いもので1学期が終業いたします。毎日子どもたちをお預け下さり子どもたちの幼稚園生活をお支え下さり本当にありがとうございました。登園時、子どもたちを心配そうに見送って下さった、お父様・お母様方の姿も、降園時「おかえり～!」と満面の笑みでお迎えに来て下さったおじい様・おばあ様も。保護者の皆様のサポートあってこそそのコロナ禍での毎日でした。至らぬ点多々あったかと思いますが、ご理解ご協力に、心より御礼申し上げます。1学期を無事に

終えることが出来ますことを神様に感謝いたします。どうぞ皆様の夏が楽しく健やかな毎日となりますように心よりお祈り申し上げます。良い夏休みを！夏の幼稚園でもお待ちしております！

### <赤組>

コンコンチキチン コンチキチン これを聴かなければ京都の夏は始まらない祇園祭のお囃子。毎年必ず聞けるものと思っていましたが、鉦の姿も見られなかった昨年。しかし今年はすべてではないものの、鉦が立ち、祇園祭の雰囲気を感じることができました。

昨年はできなかったといえば、マリア幼稚園の夏の始まりを告げる、夏のお楽しみ会。赤組さんにとっても初めての夏のお楽しみ会となりました。赤組の代表のお友達の元気なご挨拶のおかげで、練習ではなかなか1曲目から元気に歌えなかった歌も、最初から大きな口を開けて堂々と歌うことができました。音の強弱やテンポの変化のある歌でも、楽しく歌っていました。そしてリズムバンド。始まる前の子ども達の後ろ姿から感じる緊張感、そして演奏中の楽しい雰囲気、そして演奏後の大きな拍手を頂いた安堵感と達成感、子どもたちは一度にしているんな感情を経験しました。これもこの夏のお楽しみ会に向けて、みんなで力を合わせて準備をしてきたからです。準備というのは、練習だけではありません。昨年はしてもらっていた荷物運びも、赤組になった今年は緑組さんと、お客様が座れるようにねと頑張りました。また裸足幼稚園大好きな子ども達、でもお客様を迎えるときに裸足って？と問われ、考えました。せっかく見に来て頂くのに、見ていて気持ちのいい恰好とは？髪をきちんと結ぶ、靴下と上履きを履く、かわいくてかっこいいお洋服を着るなどなど。これもお客様を迎える準備だということを、この夏のお楽しみ会を通して知ったのでした。「私はお花のワンピース着るよ」「僕はネクタイしてくるわ」などなど本番の日を楽しみに指折り数えた夏のお楽しみ会。当日にはそんな素敵なお洋服を見合って「かわいいね」「すてき」と褒めあっていました。こんな準備期間を経て迎えた夏のお楽しみ会。ちょうど当日には赤組60回目の全員出席となり、また園長先生のお祝いもご一緒させて頂けて嬉しいことづくめの1日でした。園長先生のピカピカの勲章を見て男の子が一言、「ぼくもぴかぴかメダルほしいなあ」一生に一度、もうないかもしれない、みんな大好きな園長先生のこのような場を共にお祝いさせてもらい、子どもたちの希望の光となりました。数十年後には、もしかしたらこの中から表彰されている子がいるかもしれないと思うと、子どもたちの可能性にワクワクしたのでした。

1学期間、ここまで元気な赤組を見守ってくださった神様、また丈夫な身体と心を作るためにいつもお世話してくださっているお家の方々に感謝です。そんな感謝の気持ち、お祈りの気持ちを忘れないで、暑い夏休みも元気に過ごしてくださいね。また2学期に9人の元気な赤組さんに会えるのを楽しみにしています。

### <緑組>

近畿地方の梅雨明けが告げられるのと同時に、セミの鳴き声が朝から賑やかに響き渡るようになりました。子どもたちの登園時のお土産も季節と共に変化し、7月に入ってからのはやはりセミの抜け殻を大事そうに届けてくれます。このセミの抜け殻を改めて観察してみると、驚くほどに細かなところまできっちりとその形をのこしていることに、目を見張ります。

それに対して、子どもたちと育てた青虫の抜け殻は、スルッと抜け出したかのような形で指で触れれば、クシャリと壊れてしまいセミほど頑丈ではありませんでした。そのことに観察していた

子どもたちは気がつきました。命の誕生にはいろいろあって、観ているだけでとても楽しいものです。「どう変化するのか」と関心をもって観ていると客観的にみる目がいつの間にか養われていることに気が付きます。緑組の子どもたちを同様に、俯瞰して観てみると、その成長をしっかりと捉えることができます。「夏のお楽しみ会」での子どもたちの姿はお家の方にはどのように映ったでしょうか？ 花組が前に立てば、後ろから立ち位置を知らせる、スキップをすれば、小さな子に合わせスピードを落とし、あえて捕まる。楽器を等間隔に並べる、学年に応じた大きさの楽器を立ち位置に併せ並べる、与えられた役割に対して真剣に取り組めるその姿が、私にはとてもうれしく感じられました。こんなにも歌うことが好きだったんだ！（「つっぴんトビウオ」：歌いだしの♪つっぴんに込める力強さ）楽器を鳴らせば、リズム感の良さにびっくり！（みんな大好き♪チン＝卓上ベル、小太鼓のリズムは皆が口ずさめるようになりました）はじめの挨拶にあった通り「一所懸命、練習をしてきました」に間違いはないけれど、でも敢えて言うならば「一所懸命、楽しみながら練習できました」が正解のように思います。行事という「機会」を通して「やらねばならぬこと」が「いやだ／しんどい」ではなく「楽しい／おもしろい」という経験、価値となり子どもたちが互いを知り、認め合える大切な日常の場面になっているように思います。そんな幼稚園の「場面」「場面」を共有してくださるお家の方々。今学期を無事に終えることができるのも、日々のご理解とご協力、忌憚のないご意見によるものと心より御礼申し上げます。

明日より「夏休み、夏季保育」となり保育の形態が変わりますが、暑い夏、どうぞ体調を崩されませんようにお気を付けくださいませ。そしてこの夏に経験できること（オリンピックはＴＶかな？）をお子様とともに時間の許すかぎりお楽しみください。宿題のない「夏休み」は今年が最後ですから！